

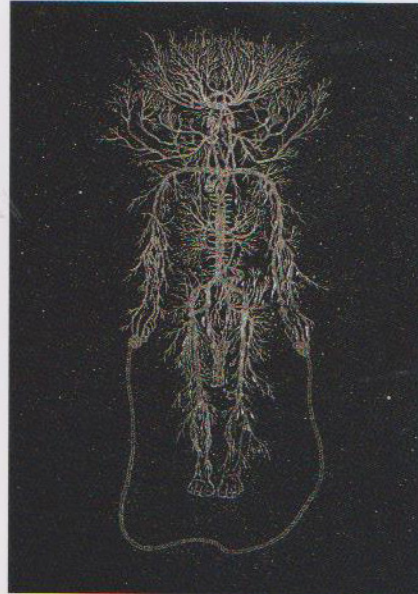
text & photographs : Tomoaki Shimizu  
清水友嗣 ●パリ在住。 스튜디오・ベルソー卒業後、いくつかのブランドでの研修を経て、ファッションを扱うジャーナリストに。週末は蚤の市・古物市めぐり。レコードと古いぬいぐるみ集めが趣味。

サンローランのクチュール  
サロンがオープン!  
17世紀に完成した建物を  
3年かけて改装したのだとか...

# PARIS

Who's NEXT  
What's NEXT

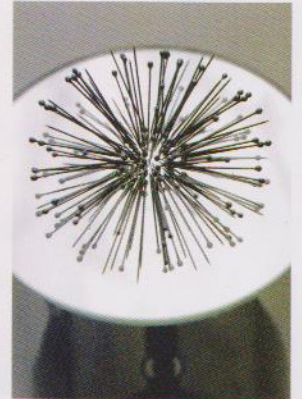
1990年代から2000年代にかけて、ジャーナリストとして本連載のパリのページを担当していた佐藤絵子さんが、自らの名を冠したギャラリーをパリ市内に先日開設したので、そのオープニングに出かけてみた。場所はセヌ川の北部に位置する20区内。アーティストのアトリエが軒を連ねる、そこだけ時代に取り残されたかのような、下町風情を残す雰囲気のある地区だ。'90年代にフリーペーパー「minimix」を立ち上げ、写真家のHIROMIXをヨーロッパで初めて紹介するなど、先進的なプロジェクトを企画してきた絵子さん。もともと芸術家を多く輩出する家系に育った彼女は、よりいっそうアートの世界へ接近し、ギャラリーオープンに至ったそう。セクションもユニークで、ジャンルやキャリアを全く問わず、“強さ”を感じさせる作家を選ぶという姿勢を貫く。まさにインターネット経由で新進作家にコンタクトを取ることもあるそうだが、基本的には20年間の探求と交流の蓄積によるところが大きいとのこと。ギャラリーを見回すと、各作家の表現手段はばらばらだが、絵子さんの審美眼によってセレクトされているので、根底に共通した何か熱いものを感じさせる。今後は、オープニングでお披露目した6人の作家たちを、一人ずつ紹介するエキシビションを予定しているという。ギャラリーが続々とオープンしているベルヴィル地区にも程近く、アートスポットとしてぜひ訪れておきたい。



ワード・メニケティのくぎで描いた作品「Corde」。5月7日まで個展が開催されている。



右 ギャラリーの出入口。パリ市内では珍しい塗り壁の壁が目印。左 調度品として置かれたビンテージ家具が雰囲気を醸すギャラリー内観。



上 金属を使用したキネティックアートを制作するローランド・ドゥプロによる「La marche de l'oursin」。個展は5月17日から。左 ジャーナリスト・ギャラリーの佐藤絵子さん。



## 「minimix」の佐藤絵子さん 自身のギャラリーを パリ20区にオープン

「GALERIE EKO SATO」57 rue des Cascades 75020 Paris  
14時～19時 日・月・火曜休 <http://www.ekosato.com>

text : Yu Masui

益井 祐 ●静岡県生まれ。ロンドンの「the pineal eye」でバイヤーとしてキャリアをスタート、以降、日本やロンドンで活動。その知識と人脈を生かし、現在はフリーのライターとして活躍。

# LONDON

周辺はDSM  
経済効果を期待中!



コム デ ギャルソン



J.W.アンダーソン



sacai

## ドーバー ストリート マーケットがお引越し 広さは3倍、おもしろさは3倍以上に!

「Dover Street Market」18-22 Haymarket, London SW1Y 4DG 11時～19時(日曜～17時) 営業



ラフ シモンズ



「ドーバー ストリート マーケット」新店舗の外観。



グッチ

ファッション業界に革命をもたらしたコム デ ギャルソンの川久保玲さんがプロデュースするコンセプトショップ「ドーバー ストリート マーケット」の最初の店舗であるロンドン店が移転オープン! 観光名所ピカデリー・サーカスから歩いてすぐの、ハイマーケットの新店舗は、かつて100年近くにわたりバーバリーの本社として使われていた由緒正しき建物。保存建築物リストに載っていることで外観、内装共に大きな変更はできないが、川久保さんのクリエイティブディレクションと、アーティストやデザイナーたちの自由な発想によって、ここにファッションの玉手箱を作り上げた。

地上4階、地下1階のフロアにはコム デ ギャルソンの全ラインはもちろんのこと、ディオールやセリーヌ、グッチといったラグジュアリーブランド、揺るぎのない人気を誇るアズディン アライアやラフ シモンズ、今が旬のデザイナーであるヴェトモンやゴージャルプチンスキー、ポール・スミスやマーガレット・ハウエルといった英国のベテラン、そして日本からはアンダーカバーやsacaiが名を連ねる。またストリートからはバレス・スケートボードが登場。J.W.アンダーソンのプレイグラウンドを模した店舗スペースに代表されるような、各ブランドならではの趣向を凝らしたコーナーは見物だ。